

土浦市中心市街地活性化協議会

第 14 回会議議事録

日時 平成 29 年 3 月 31 日 午後 1 時 30 分
会場 土浦商工会議所

1. あいさつ

2. 報告事項

- (1) 第 13 回土浦市中心市街地活性化協議会議事録
- (2) 委員の変更
- (3) 水辺空間・サイクリングロードを活かしたまちづくり視察研修

3. 協議事項

- (1) 土浦市中心市街地活性化基本計画変更について（追認）
- (2) 土浦港周辺広域交流拠点基本計画の策定について

第14回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 平成29年3月31日（金）午後1時30分より

開催場所 土浦商工会議所

出席者数 委員16名（代理1名）

出席者名

- ・中川喜久治（土浦商工会議所会頭）
 - ・伊藤光二郎（土浦都市開発(株)常務取締役）
 - ・横山 和裕（土浦商工会議所副会頭）
 - ・横山 恭教（土浦商工会議所青年部会長）
 - ・大島トシ子（土浦商工会議所女性会会長）
 - ・佐竹 守正（土浦商店街連合会会長）
 - ・関 和郎（土浦商店街連合会副会長）
 - ・大山 直樹（NPO 法人まちづくり活性化土浦理事長）
 - ・桧山 充康（土浦市地区長連合会副会長）
 - ・山根 幸美（土浦市女性団体連絡協議会元調査研究部会長）
 - ・櫻井 裕之（土浦市金融団）
 - ・瀬尾 達朗（土浦市金融団幹事行代理）
 - ・田中 清美（(公社)茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部幹事）
 - ・池田 正（土浦農業協同組合常務理事）
 - ・高木 節子（(一社)霞ヶ浦市民協会理事）
 - ・豊崎 晋也（茨城県建築士会土浦支部相談役）
 - ・高梨 将克（(株)アトレペルチ土浦主任）※代理
- オブザーバー
- ・横田 清泰（内閣府地方創生推進事務局参事官補佐）
 - ・大島 孝一（茨城県商工労働観光部中小企業課長）※代理

（土浦市）

- ・神立 義貴（市長公室長）
- ・船沢 一郎（政策企画課長）
- ・塚本 隆行（都市計画課長）
- ・皆藤 秀宏（商工観光課長）
- ・日高 寿志（商工観光課長補佐）
- ・武井 秀一（商工観光課主幹）
- ・飯泉 貴史（まちづくり推進室室長）
- ・中泉 梢（まちづくり推進室主事）
- ・奈良 達也（まちづくり推進室技師）

（事務局：土浦商工会議所）

- ・松井 修一（事務局長）
- ・稲葉 豊実（中小企業相談所長）
- ・加賀美吉彦（総務課長）
- ・森内 靖雄（中小企業相談所商工振興課係長）
- ・菅原 伸司（中小企業相談所商工振興課主幹）

挨拶

(中川会長)

当協議会の会長を仰せつかっている土浦商工会議所会頭の中川でございます。

平成28年度末、大変慌ただしい中、ご出席いただきましたこと大変うれしく思っております。

本協議会は土浦市の先を見据えた計画に対して協議を進めて参りましたが、内閣総理大臣の認定を受けられたことは大変大きな事業だったと思います。

土浦商工会議所は、本年度70周年を迎えましたが、この70年の中でも大変大きな活動であったと思っております。

少子高齢化、人口減少等の流れの中で、市民の意見を取り入れた中心市街地の活性化政策がテーマでした。霞ヶ浦の水辺をエリアに含めたことは大きなポイントであり、圏央道開通、日本一のサイクリンロード完成を見越した上で、観光産業が生まれる中心市街地活性化基本計画が策定できたことは大変重要です。

当所が70周年を迎えた事は先ほど申し上げましたが、70年にあたり土浦市に対して政策提言をいたしました。その内容は、つくばエクスプレスを常磐線へ接続をすること。6つの高速道路がつながったことを踏まえて、市内に誘客が進むようなスマートインターを設置すること。霞ヶ浦が水質浄化を世界に発信するシンボルになる噴水の整備をすること。以上3項目を今週の月曜日に市長、市議会議長に提出したところでございます。

困難もあるとは思いますが、地方都市として観光という大きな目玉を政策に含めて欲しいという思いは、商工会議所も協議会と同じであります。

これだけの有識者の皆様が市の問題点について、時間と労力を重ねている事を市の幹部もご理解いただいて基本計画の推進にあたっていただきたいと思います。

今回は、5月以来の開催となりますが、事前のご案内のとおり、基本計画変更についての承認と、霞ヶ浦周辺の開発にかかる土浦港広域交流拠点基本計画(案)について協議をいただきます。

土浦港広域交流拠点整備計画策定にあたっては、策定委員会が設置されており、去る3月24日3回目の策定委員会で承認を受けた計画案についてご説明をいただきます。

本来であれば、もう少し早い時期でご報告できれば良かったのですが、策定委員会の進捗状況を踏まえまして、本日の開催の運びとなったわけでございます。

何れにしましても、土浦港広域交流拠点整備は、川口二丁目整備事業に含まれるもので、「歴史が息づき 人々が集う、魅力ある湖畔のまち」を基本理念とする基本計画において霞ヶ浦の利活用は、新市庁舎、新図書館に並ぶ主要事業であります。

本協議会では、霞ヶ浦への集客を考える上で水質改善は大きな課題であり、水質改善の達成度を多くの方が体感できる仕組みの必要性を再三申し上げてきました。

また、川口運動公園周辺の整備においては、日本一のサイクリングロードが整備され、野球場もリニューアルされることから、スポーツイベントの拠点となりえる整備をお願いして参りました。

市で先行して開発した後、民間参入に向け積極的な誘致が行われると伺っております。機構改革で明日から新体制となる土浦市への期待値も含め、今後の川口二丁目整備に向けたご意見を頂いてまいりたいと思います。

後ほどご説明がありますが、調査研修部会において、水辺空間を活用した事業と、サイクリングを通じた賑わい創出に寄与する視察研修を計画しております。何れも今後、霞ヶ浦周辺地区で話題になる事業でございますので、お繰り合わせいただき、ご参加いただければ幸いです。

本日の会議は90分を予定しております。有意義な協議となりますよう努めて参りますので、皆様のご協力をお願いいたしまして、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

2. 報告事項

(1) 第13回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

添付した議事録をもって報告とした。

(2) 委員の変更

商店街連合会 関氏、土浦市金融団 櫻井氏が新たに委員となったことを報告。

(3) 水辺空間・サイクリングロードを活かしたまちづくり視察研修

5月15、16日に今治市、尾道市に赴く視察計画について説明。

3. 協議事項

(1) 土浦市中心市街地活性化基本計画変更について（追認）

（菅原）

幹事会の事前協議において土浦市より説明を受け、意見書を取りまとめ10月7日付で提出した旨を説明。

（中泉主事）

計画期間、支援措置の名称、事業名の3点を現状に即した形に変更した。また、構成員を現状に即して表記した旨を説明。

異議なく承認された。

(2) 土浦港周辺広域交流拠点整備基本計画（案）について

（飯泉室長）

市が取得したプロバスト計画跡地（約5.1ha）の土地を、公共と民営の連携により観光客の訪れる魅力ある地区を整備するため、地区全体の基本計画を策定するもの。

コンセプトは、「霞ヶ浦を身近に感じる観光・レクリエーション拠点」とし、賑わいパークゾーン・交流拠点ゾーン・憩いくつろぎゾーン・マリナーゾーンの4つにゾーニングした。

賑わいパークゾーン（芝生・イベント・遊具広場、駐車場等）・交流拠点ゾーン（エントランス広場、交流拠点施設等）を市が主体となって先行して開発する。

マリナーゾーン（ヨットハーバー、昇降リフト等）の整備後、親水ゾーン（親水施設、足湯、自転車練習用園道等）を整備するが、現段階で事業主体は未定。憩いくつろぎゾーン（オープンカフェ、温浴施設等）は民間参入を誘致する部分。

運営形態は、公設民営を目指す。民間参入希望者が現れるまでは、市が運営主体となる。

市が整備する部分の概算工事費用は、2億6千万円を見込んでいる。

準備が整い次第、4月中旬からパブリックコメントを実施する予定。

（中川会長）

横山和裕委員が本協議会から代表で出席していただいていますので、横山委員から報告をお願いします。

（横山和裕委員）

中心市街地活性化基本計画No.7に記載の川口二丁目整備事業に関する部分の整備を具体的にどうするかを策定する会議でございます。

中川会長より指名を受け7月、10月、3月の会議に出席してまいりました。

委員は、筑波大学 大澤先生が委員長を務め、同じく筑波大学の山本先生が副委員長を務めています。茨城県河川事務所長、土木事務所長、土浦市議、旅行代理店、サイクリング協会、市の執行部を含め、専門性を持った方々で構成されており、鋭い指摘が多々あり皆さん関心をもって出席されているという事を感じています。

本日の会議資料は、3月24日に開催された際に配布された資料と同じもので、2回目までの意見を踏まえ作成されたものです。

3回の会議を通じ、中活協の意見として、基本計画No.17に記載の世界一の噴水を霞ヶ浦につくる事を改めて発言しておりますが、前向きな回答は得られていません。噴水を計画に含めた事で認定が得られたと思っておりますし、水質浄化のシンボルを作るという事が悲願であります。

先日の会議では、先行して開発する部分と、今後民間参入が期待されるエリアが道路・駐車場で分断されている。サイクリスト、歩行者、自動車の安全面を含めて、一体的な動線計画が必要であることが指摘されていました。

また、第三セクターを含めこのような施設が全国で運営されていますが、失敗している事例が多いことを旅行代理店の委員の方が危惧していました。10年先を見据えた場合、細部を詰

める必要があるのではないかと感じました。つくば市の観光協会等と情報交換、連携を図り TX の客を呼び込むこと。東口駐車場との連動も検討すること等も意見がございました。

策定委員会で案が承認されて4月からパブリックコメントが始まりますが、今日の協議会の意見を反映できないかとお願ひしましたが、制度上パブコメを通じて欲しいという事でした。今日は皆様の意見を聴きながら、重要なことについてはパブコメに協議会の意見として発信して行きたいと考えています。

私が気になるのは、第二回目の会議では広場の利用客が休日ピーク時1,000人と説明があつて、三回目の会議では、平日170人休日200人と修正されたようですが、これで果たして民間施設が入るのか心配しています。

ペルチに茨城県との連動で、サイクリング施設が整備されますが、内容を見ると似通っていると感じています。ペルチは電車利用者、川口は車利用者とする分けしているのかもしれませんが、分散しないかという事も心配材料です。

もう一つは、ラクスマリーナと言う名称は、分かりづらいので例えば「土浦マリーナ」「霞ヶ浦マリーナ」のような一体感を持てる名称が良いのではないかと言う話も致しました。

(塚本課長)

利用者人数の件で質問をいただきました。二回目と三回目で大きく期間が空いてしまいましたが、これはペルチのサイクリング施設の計画が出てきた関係によるものです。

当初は1日1000人を見込んでおりましたが、約2haの計画エリアのもので、今回の計画では緑地面積等を減らしており、1時間当たり最大でその位の人数であろうということです。

ペルチと川口の整備についてですが、ペルチは駅ビルですので輸送の方がメインです。川口では車利用者を受け入れられるようにしています。川口はここを拠点に市内を回遊していただく玄関口となる施設という位置づけです。

(高梨氏)

サイクリングを通じて土浦市を活性化して行くということでしたが、ペルチではサイクリング拠点の整備をすすめております。ご指摘がありましたが、私は色々な拠点があつて良いと思います。かすみがうら市にも拠点が存在しています。リンリンロードがほぼ出来上がっている状況ですが、自転車に乗りながら色々な地区を視察しています。現状車で来られるのは、筑波山の麓にある駐車場があり、ここを利用されている方が見受けられますが、川口に駐車場付の拠点が出来れば土浦市に来ていただけたらと思っています。

しまなみ海道視察が計画されておりますが、私も行ってきました。実際自転車を借りて走ってみると車道の脇にサイクリングロードがあります。リンリンロードは、専用道になっていきますので、そこと比べると安全だと感じており、初心者の方でも安心して楽しめるサイクリングロードだというイメージがあります。

しまなみ海道は、様々なサイクリング拠点が連携しながら、また自転車に関連しない小売店が休憩所として展開しています。サイクリングマップにはこの店ではこんなサービスがあります等、街として取り組んでいる印象があります。一部リンリンロードでも取り組みが見られますが、これから土浦で取り組みを広げる中で、単体でツールを作るのではなく、例えば準備室を作り始めて、世の中にどう打ち出して行くかを検討することが必要だと思います。

我々はJRグループですので、旅行会社もごぞいます。どのような企画が土浦で楽しめるのかなど、皆様と一緒に考えて行きたいと思っています。

(山根委員)

昨年5月25日の茨城新聞に土浦市がサイクルステーションを整備し内覧会が行われたという記事がございますが、これがペルチのサイクリング施設なのでしょう。

こちらの利用状況と、これからの施設がどのような利用者を見込むのが重要だと思いますので、教えてください。

(船沢課長)

新聞に掲載の施設は、土浦駅東口のキララ館跡をコンバージョンして整備したサイクルステーションです。中には、着替え場や輸送者が組み立てる場所を設けています。人を配置してい

ないので正確な利用者数を把握できておりませんが、土日の利用が特に多いという事は聞いています。施設が出来る前は、民間駐車場で自転車を組み建てていると聞きましたが、施設が出来てからは、輸行者がこの施設を使っていると聞いています。

(山根委員)

土日の利用者が多いというお話でしたが、サイクルステーションがあっても溢れた人が駐車場で組み立てをしている状況なののでしょうか。ペルチや川口に新たな施設が出来れば、また新たな利用者が来るであろうという見通しなのですか。

(船沢課長)

サイクルステーション整備後は、駐車場で組み立てる人や着替える人が減ったと聞いています。ペルチの整備主体は茨城県ですが、これに市が支援する予定です。首都圏では約500万人のサイクリング愛好者がいると聞いています。JRとタッグを組むことで、広いパイが土浦に来ることが期待されています。駅の東口と西口が連動して多くのサイクリストを呼び込むことを目的として整備を進めております。

(中川会長)

利用者数の見込みは出ているのでしょうか

(船沢課長)

現段階では、正確な数字は伺っていません。新年度設計を進める中で、利用見込みなどを勘案して整備を進めて行く事になります。

(高梨氏)

我々も初めての取り組みですので、マーケティングデータとしての効果の見込みは表せないところであります。日本全国で1000万人のサイクリストがいて、そのうち500万人が首都圏に在住しているデータがあります。サイクリストは年々増え得ており、ロンドンオリンピックを境に増えた傾向がありましたが、2020年に東京オリンピックがありますので、その際にまた増えるの見込まれています。これまでは男性が多かったのですが、女性のグループでのサイクリストが増えています。サイクル拠点が出来ると、これまで観光で訪れたことが無かった方たちが来やすくなりますので、今回の取り組みは有益だと考えています。

(佐竹委員)

来月かすみがうらマラソンが開催されますが、市は将来的にリンロードを活用した大きな大会を実施する計画はありますか。全国で1000万人のサイクリストがいるようですので、似たような取り組みはあると思いますが、大会によって土浦を知ってもらって活性化にもつながると思いますので、イベントも必要だと感じました。

(神立公室長)

現在、具体的なイベントの計画がありませんが、将来的にご発言のあったイベントの開催は必要であると考えております。今は船で行って自転車で帰ってくることや、霞ヶ浦を一周するサイクリング大会などもありますので、これらも含めて、JRなどと協議しながら誘客を図って行きたいと考えております。

(横山恭教委員)

商工会議所青年部で、昨年しまなみ海道を視察してきました。今治市のサイクルシティ推進室で話を伺い街道を自転車で走りました。

しまなみ海道は、もともとサイクリングロードは無かったと聞きました。完成後サイクリングロードを整備して多くの人が行き来するようになったようです。

ここ3年で確立されていますが、それまでは年間1~2万人程度であったそうです。

そこは点在する島を渡って行くため、坂を上らなければならないのですが、そのため、電動付自転車を用意してあり、子供やお年寄り、女性でも安価に借りられて、各島にある「島の駅」に返却ができます。車で後をついてくる人がいれば、乗り捨てができるような仕組みが出来て

います。

今治のサイクルシティ推進室の方には、現地で話を伺い、昨年9月には土浦にも来ていただきました。お話では、2年に1度登録5万人にもなる大きな大会を実施していると伺いました。海外からも参加があります。

しまなみ海道は今治市と尾道市を繋ぐ海道ですが、尾道市側は、始めは取り組みが無かったようで、今治市側が活性化してきたので、尾道市が後から取り組むようになったそうです。

リンリンロードにもいえる事ですが、土浦が拠点で桜川市との双方のメリットが出るよう連携を図らないと長距離のサイクリングロード成功は難しいと伺いました。

しまなみ海道は所々に修理する場所や、自転車を置くところが多くあって、街全体で「サイクリングの街」という雰囲気を感じているのが行った瞬間に感じる事が出来ました。

サイクリングロードを使う事より、これをどのように活かして行くか、ルートの中で休憩所があることや売店がある事が先決ではないかと思えます。

しまなみ海道では、自転車のすぐ脇を車が通ります。リンリンロードは専用道なので、走りやすいのですが、連結部分では車が横切りますので、ランストップが繰り返しになり軽快に走る所が短いという話は聞いています。

5月にしまなみ海道視察が予定されていますが、風景はとても素晴らしいサイクリングロードですので、私も走りましたが実際に自転車に乗ってみると良いと思えます。

風景では負けてしまうかもしれませんが、霞ヶ浦の自転車道も走りやすさなど、素晴らしいところがあります。活用方法はいくつも考えられるので、失敗例から成功を導き出す方が良いと思えます。

(豊崎委員)

土浦港周辺広域交流拠点計画が早く実現できればいいと楽しみにしております。

そのなかで、細かいところですが、付帯施設計画について、土浦の景観審議会で公共サインについて触れている事があると思えます。整合性は考えておりますでしょうか。

(塚本課長)

土浦市の施設案内については、道路標識など青藍を使っていますが、個々の施設については、施設イメージにあった色を採用しています。ここでは、川口二丁目エリアの中で、どこに何があるかのサインですので、湖に隣接することから瑠璃色を基調としているものです。

たとえば小町の里であれば桜色を使っています。

(中川会長)

湖沼会議の誘致も基本計画には入っていたと思えます。これは茨城県が手を挙げて平成30年に開催が決まりました。

霞ヶ浦が汚れているイメージがあるから観光利用が難しいのですが、茨城県民は森林湖沼環境税を払って、綺麗にしているということを訴えるための水質浄化型の噴水であります。

湖沼会議開催にあたっては、浄化に対して土浦としての発信力が必要で、拠点になるシンボルとして噴水が必要だということだったと思えます。

市の担当課も大変なご努力をされて、県や国との協議をされてきていると思うのですが、国と県の協力が得られないから出来ないという話ではないと思えます。

今の状況だったらこういうレベルの噴水ならできるとか、今の段階ではこれしかできないけど将来的には拠点として位置付けて行きたいなど、ゼロではない回答をいただきたいと思えます。

市民の会が立ち上がったことも考えれば、世界一の噴水という思いは強かったかもしれませんが、当時は琵琶湖の噴水を超えれば世界一だというレベルで挙げた話ですので、現段階で整備可能な噴水の提案をいただきたいという思いはあります。

(佐竹委員)

かすみがうらマラソンがあって、サイクリングロードがあって湖が綺麗になれば、トライアスロンができると思えます。水質浄化することで様々な「売り」ができると思えますし、土浦の活性化に繋がって行くと思えます。

(中川会長)

ベスト、ベター、モアベターと言葉はありますが、意気込みとしてはそういう姿勢が必要だと思えます。

補助金があっても政治等で方向性が変わる事もあると思うので、思うようにいかないことは百も承知ですが、湖沼会議は大きなインパクトになっていると思えます。注目度は上がっていますので、県や国に発信しながら浄化のシンボルとして基本計画を前に進めることはとても重要だと思えます。

(神立公室長)

会長からお話があったのは、段階的に出来るものに取り組んで欲しいという事だと思えますが、当初噴水を計画に位置付けた目的もあると思えます。

現実的に出来る噴水がどの程度なのかという課題がありますが、政策の効果も検証しながら進めて行く判断が必要だと思えます。

市の財政状況の中で、出来る事は精一杯検討させていただきたいと考えています。

(大山委員)

配置計画の中でマリナーゾーンはラクスマリーナと民間参入が期待されるエリアということでした。マリナーゾーンの計画を見ると少な目ですが、一番近くに水を感じられる親水エリア、マリナーゾーンは最も大事な部分です。

ラクスマリーナのヨットは個人所有ですので、利用者が使い易いようにしなければなりません。民間に全て任せるのではなく、水と接しやすい場所をしっかりとつくっていただく計画していただければと思えます。

(塚本課長)

計画策定にあたっては、ラクスマリーナにも参画していただいています。不定形なかたちですが、マリナーの遊覧船は新港からでていますが、元々は土浦港からでていました。

船は預けている方がいますので、そこはセキュリティを確保するため一般の方は入って欲しくないのが、オーナーの気持ちであります。

それが混在している状況なので、ラクスマリーナの秋元さんからの意見ですが、土浦港に接するような形にすれば、土浦港には一般の方も入れて、新港のヨットハーバーはオーナーゾーンにすみ分けができるという事です。

ラクスマリーナは民間ですので、ある程度形はゾーンのなかではとっておりますが、中身については市と協議はしています。あり方は今後検討されていくことと思えます。

(横田オブザーバー)

会長からもお話ありましたが、土浦市中心市街地活性化基本計画は3大核事業がございまして、市庁舎、図書館と川口二丁目の開発であります。

川口二丁目については、土浦港広域交流拠点基本計画が核になるのだと思えます。

事業実施にあたっては十分な調査が必要になりますので、市も民間事業者の実施主体の方向性についてアンケート調査をおこなって、その結果、市が先行して一部のエリアを整備されることだと思えます。

横山委員からも指摘がありましたが、サイクリストの拠点とするという事だと思えますが、土浦駅のサイクリング拠点整備は地方創生の拠点整備交付金を導入いたします。私が担当しておりますが、整備するにあたっては、これまで駅施設に拠点をつくる計画はなかったわけで、正にパイロットケースになります。佐竹委員からお話ありましたが、ロードレース等のイベント開催について、実は今日、明日、明後日と3日間、栃木県でツールド栃木というサイクリングレースが開催されます。こちらでも地方創生推進交付金を活用しております。図らずも茨城県はサイクリストの拠点整備で、栃木県はイベントで拠点化して行くというものです。

実際にハード整備だけでは意味はないので、いかにソフト事業との連携を図って活性化に繋げるかという事が重要です。サイクリングロードができることで、国民の皆様の理解を得る効果的なことはロードレースを開催することだと思えます。

栃木県知事と話す機会がありましたが、将来的には栃木県内だけで留める考えはないという事で、場合によっては茨城県と連携を図りたいという事でした。

近い将来の内に栃木と茨城をまたいだ世界的な規模のロードレースが開催される可能性もあると思います。

世界的なレースが開催されたコースであれば、走ってみたいというサイクリストは多いと思います。このように付加価値を付ける事が重要で、この意味で川口二丁目はサイクリングで茨城と栃木をまたぐ拠点になる可能性を大いに秘めております。このような観点から施設整備を図ることになると思いますし、商機が生まれますから民間投資が促進されると考えています。

現時点においては、その方向性が見えていないわけですから、民間事業者としても採算性から進出が難しいという結論にならざるを得ないと思います。

私も土浦にありますが、地元にいると地域資源を持っているだけで満足してしまいがちです。これでは意味がないので、地域資源をいかに磨くかによって真の地方創生が図られることと思います。

まだ計画段階ではありますが、川口二丁目地区がサイクリストの拠点となって、茨城の新たな顔が出来れば良いと思います。これには人々が集まるインパクトのある施設が必要になると思います。商機のあるエリアとみられる過程で、世界の噴水のようなシンボルとなる施設整備の実現の可能性が高まってくるものだと思います。

噴水施設もサイクリング施設もつくることを目的とせず、つくと同時に将来的なビジョンを描きながら計画を実施していただければと思います。

このように事業を進めていただければ、中心市街地活性化基本計画はあと2年ですが、目標の達成に向けて着実に事業が進捗して、一定の成果が見られれば、土浦市の中心市街地活性化は正しく地方創生の先駆的な取組として情報発信がされると期待しております。

(中川会長)

様々な意見をいただきましたので、初めて参加された方も理解は深まったものと思います。

本日の議事録は、事務局で早期に取りまとめて、大澤副会長はじめ欠席された委員の方にもご報告いただいて情報共有を図っていただきたいと思います。

以上で、本日の協議は終了いたします

(事務局)

5月8日平成29年度総会開催、5月のしまなみ海道視察は4月5日申込み締め切りとなりますので、併せてご都合をお知らせください。